

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校の自己評価および学校関係者評価結果一覧表

2021年度(令和3年度)評価

【評価尺度】0:当てはまらない 1:一部当てはまる 2:概ね当てはまる 3:十分当てはまる

2021年度(令和3年度)の自己評価

| 大項目 | 中項目 | 評価尺度 | | | | 平均 | 評価内容 | 評価視点 | 自己評価(概要・今後の課題) | 学校関係者評価委員の評価 | | | | |
|------------------------|--|------|---|---|---|-----|---|---|---|--------------|------|--|---|--|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | 評価尺度 | コメント | | | |
| 1 教育理念・目的・目標 | 1. 教育理念・目的の独自性 | 0 | 1 | 2 | 3 | | JCHOの使命に基づいた学校独自の教育理念・目的をもっている | JCHOの地域医療・地域包括ケアの要となる人材育成の方針に基づいた独自の独自性を教育理念・目的に明記している。 | 教育理念・目的はJCHO組織に移行する際に見直し時点でも問題はないと判断した。 令和2年度に大阪病院看護部と附属看護学校において「Autonomy」をコンセプトとし、令和2年度の学生便覧、学校案内、学校ホームページに、コンセプトである「Autonomy」自律を加えて「社会の保健医療福祉の向上に寄与する自律した人物を育成することを目的」とすることを周知している。今年度も引き続き様々な場面で広報活動を行っているとともに、次年度の新カリキュラムでも継続して育てていく予定である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | JCHOの地域医療・地域包括ケアの要となる人材育成の方針に基づき、大阪病院附属看護専門学校としての「Autonomy」をコンセプトとして、学校案内、学校ホームページに記されていた。 |
| | 2. 教育理念・目的の適切・妥当性 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 教育理念・目的が社会の要請に対応している | 社会のニーズ等を踏まえた看護専門職の育成を目指し、医療・介護等の現場から情報収集し、年一回以上教職員で検討する場を設けている。 | 教育理念・目的の変更の必要性はないと判断している。 次年度より新カリキュラム導入にむけて検討し、内容の重複や変更がないか検討した。科学技術が高度化、細分化し価値観が多様化する社会背景を受け、社会の要請に対応でき、質の高い看護を提供できるようにディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを見直し整理した。今年度は、新カリキュラム作成の年度でもあったため、例年以上に詳細に何度も評価を行い、また、3月に学生アンケートも活用し、評価を行い教育目的・目標が達成できているか、内容の妥当性などといったカリキュラムを検討する場を設ける予定である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 新カリキュラム導入にむけて教育理念・目的が社会の要請に対応しているかを検討し、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを見直し整理された。 |
| | 3. 教育理念・目的・目標の周知 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 教育理念・目的・目標は、学生、保護者及び教職員に周知されている | 年度当初の新入生オリエンテーションや保護者会で年度目標と関連させて教育理念・教育目標を学生、保護者及び教職員に説明し、学生便覧やホームページに明記されている。 | 教育理念・目的・目標は、学生便覧や学校案内、ホームページに掲載し周知している。 また、入学前の学生に対してはオープンスクールや進学説明会で、また令和3年度の入学時には、令和3年4月に入学前オリエンテーションを実施し教育理念・目的、教育方針を伝えた。また、入学式後に保護者に対して説明もしている。令和4年度入学生に対しても、同じように周知する予定である。 また、在学生に対しては実習要綱にも記載をし、実習オリエンテーションで必ず確認をしてもらい何度も繰り返し理解を深め目標を意識できるように関わっている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 教育理念・目的・目標は、学生便覧や学校案内、ホームページに掲載し周知されていた。 保護者の方にも年に2回の保護者会を開催して周知していることがわかった。 |
| | 4. 教育目標の設定と評価 | 0 | 1 | 2 | 3 | 3.0 | 教育目標は、育成しよりとする教育目標について明確にされている | 教育目標は教育理念・目的と整合性があり、中長期目標も示されている。 | 令和2年度に、JCHOの理念やJCHOの看護学校の設置目的も確認して中長期目標を明文化することに取り組み、JCHO大阪病院附属看護専門学校第2期中期目標と令和2年度の目標と戦略を明文化した。その目標の達成度、課題を評価した上で令和3年の看護学校の目標を設定している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 「JCHO大阪病院附属看護専門学校第2期中期目標と令和2年度の目標と戦略」が示されていた。 |
| 5. 教育課程の活動 | 5. 教育目標の設定と評価 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 教育目標は、育成しよりとする教育目標について明確にされている | 関係法令の改正により、平成30年に学校教育法施行規則第165条の2が追加されたことで、3つのポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）を求められている。そのため、教育方針・教育理念・教育目的、教育目標を見直し、大阪病院及び附属看護専門学校がどなたも入学してほしいか、卒業時はどんな姿かを検討し、アドミッション・ポリシー、ディプロマポリシー（卒業認定に関する方針）を令和元年度に明文化した。また教育目標を達成にむけて、コンセプトである「Autonomy」目標をどこまで深く確認しながら入学から卒業までの段階別到達目標（1年次～2年次）も作成をした。 しかし、令和2年度の評価で大阪厚生年金看護専門学校の時代から継承されている教育目標と関連させながらディプロマポリシーを作成しているため、評価する中で重複している項目もあることが分かってきた。今年度の新カリキュラムでディプロマポリシーとアドミッションポリシーとの関係性を再確認し、整合性を保ちつつディプロマポリシーは9項目あったが5項目に整理し、カリキュラムポリシーも変更し、より学生がどのようなカリキュラムで、どのような姿になれば良いのか明確にし分りやすく設定した。 | 0 | 1 | 2 | 3 | JCHOの目指すものが「地域医療・地域包括ケアシステム」、「切れ目のない包括的ケア」であることを考えとディプロマポリシーの中に「地域」というキーワードを入れるとわかりやすいと思った。 | |
| | 6. 教育目標が達成されているか評価している | 0 | 1 | 2 | 3 | | 教育目標の到達度について評価され、年1回は見直しを行っている。 | 実習の教育目標が達成しているかの評価は各領域ごとに行い、また全体の実習を通しての到達に關しては実習調整者が主となり分析している。また、1年～3年までの段階別到達目標があるため、卒業時アンケートも段階別の到達目標を用いて実施し学生の自己評価を行っている。すべて結果が出た段階で最終評価を3月に行っている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 卒業時のアンケートを分析し、今後に活かしていくのとはとも良い、それが明記されていると良いと思う。 | |
| | 7. 毎年度の教育課程の編成を検討する場が組織化されている | 0 | 1 | 2 | 3 | | 目的・構成メンバー役割・機能が明記され、会議の開催が定例化されている。 | 令和2年度に、会議運営要領は会議の種類・目的・会議開催の時期、構成メンバーは明記し、コロナの影響で短縮した会議（臨床研究会など）はあるが、基本的には開催され情報共有や課題が導き出されている。また、会議の役割も担当を決め積極的に行われている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 目的・構成メンバー・役割・機能が明記され、会議の開催が定例化されていることがわかった。 | |
| | 8. 実施した教育課程を評価し、その評価結果を次の教育課程編成に活用している | 0 | 1 | 2 | 3 | | カリキュラムの結果から目標の達成度を把握するとともに、学生の卒業時アンケート、自己点検・自己評価結果も踏まえて、教育理念・目的およびディプロマポリシーの実現のために、どのような取り組みが必要か、教育活動にフィードバックすることを考え、教育課程の編成を検討している。 今年度は多くの時間を新カリキュラム会議とし、早期に評価をしながら科目名と講義時間、講義時期を見直し、教育課程編成を行った。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 新カリキュラム会議の中で教育課程の評価結果を教育過程の編成に活用されていたことがわかった。 | | |
| 6. 教育課程編成の考え方とその具体的な構成 | 8. 教育課程は、教育理念・目的・目標と一貫性のある内容になっている | 0 | 1 | 2 | 3 | | 教育課程は教育理念・目的・目標と矛盾しておらず、毎年見直しを行っている。 | 教育理念・目的・目標は変更していない。矛盾することなく整合性があると判断している。また、今年度は新カリキュラム会議を何度も開催し、教育課程の評価を経過をふまえて早期から行い見直し、新カリキュラムが完成し、承認も得られた。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 新カリキュラムにおいて繰り返し、教育課程を教育理念・目的・目標と矛盾がないように検討され提示されていた。 | |
| | 9. 教育課程は中心となる概念を明確にして構築している | 0 | 1 | 2 | 3 | | 中心概念である「人間・環境・健康・看護」の4概念を2019年の学生便覧より掲載している。新カリキュラムが導入されるにあたり再度4つの概念を確認し、修正するとともに、「教育」というキーワードを概念に加え、中心概念を明文化した。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 中心概念を「人間・環境・健康・看護」の4概念から「教育」を加え、5概念にされて明文化されていた。 | | |
| | 10. 基礎分野・専門基礎分野・専門分野の考え方が明確になっている | 0 | 1 | 2 | 3 | | 各分野の考え方、構造図、シラバスなどは文章化し、教職員には周知している。令和元年度より入学前に渡す学生便覧にも掲載し配布している。 新カリキュラムでは統合分野がなく専門分野に在宅・統合が入り、療養の場の多様化等を勘案した組み立てを行った。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 基礎分野・専門基礎分野・専門分野の考え方が明確になって明文化されている。 | | |
| | 11. 学籍の到達について明確な考え方と指標をもって教育課程を編成している | 0 | 1 | 2 | 3 | | 現時点では、指定規則に則った修業年限、到達レベル、学習時間数であり問題ないと判断している。 新カリキュラムでは時間数に対して規制はないが、3年間でやる時間数を考え3000時間程度と考え設定し、カリキュラムを構成した。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 新カリキュラムにおいても学習の到達レベルを考え、教育課程を編成していることが見て取れた。 | | |
| 7. 教育課程評価の体系 | 12. 単位履修の要件とその方法を明示している | 0 | 1 | 2 | 3 | 2.9 | 履修規定が文書で表現されている | 履修規定が文書で表現されている。 単位履修の要件とその方法を明示している。 | 令和元年度に履修規程、既修得単位の認定申請用紙を見直し、学生便覧に掲載し周知している。また、学習低迷者には特にチューターや学科担当から個別的に周知徹底をしている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 履修規定が文書で便覧に掲載されていた。 |
| | (1) 単位履修の考え方 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 履修規定が文書で表現されている | 履修規定が文書で表現されている。 単位履修の要件とその方法を明示している。 | 令和元年度に履修規程、既修得単位の認定申請用紙を見直し、学生便覧に掲載し周知している。また、学習低迷者には特にチューターや学科担当から個別的に周知徹底をしている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 履修規定が文書で便覧に掲載されていた。 |

| 大項目 | 中項目 | 評価尺度 | | | | 平均 | 評価内容 | 評価視点 | 自己評価(概要・今後の課題) | 学校関係者評価委員の評価 | | | | |
|-----------------|-----|------|---|---|---|----|--------------------------------|---|--|--------------|------|---|---|---|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | 評価尺度 | コメント | | | |
| (2) 教育課程を評価する体系 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 13) 教育課程の評価体制が整備されている | 教育課程の評価システムが明記されている。 | 教育課程の評価は教務会・自己点検自己評価委員会、運営委員会がある。また、平成30年度から学校関係者評価を年1回行っており、令和3年度は3月9日に開催する。 現在の学校関係者評価委員は、当校の卒業生(教育に対する知見のある人)、当校の元教員に限定されている。多角的に学校教育を評価してもらうためには、当該限定せず、JCHO関連病院で教育に対する知見を有する人、学校で教員経験のある人に変更する方がよいと考えた。そのため、今年度は学校関係者評価委員会の構成メンバーの基準を見直し、JCHO本部職員を委員から外し、委員にはJCHO以外の外部の学校からの教員および、JCHOの看護学校(神戸)より招き、実施予定である。 学校関係者評価に関してはHPに講評し公開するとともに、次年度の課題を明確化している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 多角的に学校教育を評価するために評価委員を見直すなど、体制を整え、評価を公表するとともに、フィードバックされている。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 14) 学校関係者による評価体制がある | 講師による評価をしている。 | 全科目の授業アンケートを学生より実施しデータ化している。また、専任教員に関しては科目の自己評価を行い、改善点や良かった点を明確にし次へ活かすことができるようにしている。 また、今年度は、可能な限り外部講師へも授業アンケート結果をフィードバックし、授業評価を行った。JCHO大阪病院内の講師に関しては、今年度は直接学生のアンケート結果に関して評価をさせていただくのではなく、学生の評価をふまえて講師へ結果と課題を提示することとした。 今後は、アンケート項目も見直しつつも、学生の意見を反映できるとともに、学生がより一層建設的に意見を言うようにオリエンテーションを行い、多くの講師からの授業評価が実施でき、よりよい授業の在り方を考える機会となればと考えている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 全科目の授業アンケートを学生より実施しデータ化し、専任教員のみではなく可能な限り外部講師へも評価をフィードバックし、講師自身にも自己評価していただいていることがわかりました。 授業は学生と講師との相互作用で作られるものなので、よりよい授業にするためには大切なことだと思います。 また、それは実習においても同じであると思えます。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 15) 担当科目にふさわしい教材を配置している | 実習指導者会議・附属病院及び卒業生が勤務する病院関係者による評価をしている。 | 教務会で評価したことを臨床教務会で報告し、実習に関して評価を得ている。今年度は実習に関するアンケート調査結果をまずは、看護部と情報提供した。実習の良い点や改善点を明確にし、授業評価を行い次年度に向けて活かしていきたい。 | 0 | 1 | 2 | 3 | |
| 8. 教員の指導体制の整備 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 15) 担当科目にふさわしい教材を配置している | 担当科目に精通した教員が専門性を発揮できるよう、担当科目と時間配分を調整している。 | 高等教育修学支援制度申請時に実務経験の有無を確認してホームページに掲載している。 「看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン」に定められている所定の履歴を記載してもらい学校で保管している。令和3年度から国際看護の授業にJICA国際協力出前講座を活用する。また、住友病院は血液・造血器疾患に関する治療・看護が行われているので、3年前から講義を依頼している。 長年依頼していた英語の講師は、授業評価結果も踏まえて、令和3年度の英語講師を依頼継続しないことにした。 院内の講師に関しては、院長・看護部長に講師の派遣を依頼している。 また、新カリキュラムでは、最前線で活躍する経験豊富な医師や看護師に講義を依頼することとした。特に認定看護師や専門看護師などに講義をさせていただくことで、専門的かつキャリアアップが図れるように組み立てている。 専任教員に関しては、精神看護学、母性看護学、小児看護学に関して科目に精通した教員ということに関しては、配置教員の中で選出しており難しい現状であるが、セミナーなど受講し理解を深め自己研鑽している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 専門性の高い教員に授業をしていただくことは、学生たちの興味関心を高めるためにも大変重要である。 大阪では専門性の高い講師の選択のために、いろいろと工夫をしていることが良くわかった。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 16) 教育の専門性を高めるための環境づくりに努力している | 自己研鑽ができる時間・資源を確保できるよう努力している。 | COVID-19の感染予防のため、オンライン研修が中心であったが、希望すれば参加できるように教員間で調整し時間を確保した。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 教員が自己研鑽できるように環境を整えることは教育の質を上げるためにも、大変重要である。 COVID-19の時だからこそ、研修もオンラインで受講しやすくなるなどもあるため、積極的に教員にも自己研鑽してほしい。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 17) 実習施設としてふさわしい学習環境である | 病院内で臨床研修を受けるしくみはあり、その都度依頼している。令和3年度は活用していない。 | 臨床教務会では年9回実施し、臨時でもコロナの状況に応じて看護部長、院長、学校長、ITと相談しながら実習できる方法を模索した。一部実習方法を変更し、その都度、師長会やベッドコントロール会議の時間を活用し周知した。実習病棟および学生配置人数については、教育担当師長にも相談しながら決定した。 COVID-19感染を予防するために、分散し密になる状態を避けるように学習環境を整えた。 大阪病院以外の実習施設においても、学習環境が整えられている施設を活用できているが、今年度はコロナの影響で精神看護学実習は学内実習となっている。状況においては取れない。 臨床実習では、COVID-19で病棟も忙しく、実習指導者が配置されないこともあった。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 |
| II 教育課程 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 2.9) 18) 臨床実習指導者と教員の協働体制が整っている | 定期的な指導者会議・学習会を開催し、随時連絡をとり実習調整し、年度末には翌年の指導方針を話し合いしている。 | 令和3年度は、大阪病院の教育体制の変更年度であったこと、COVID-19感染拡大もあり、実習指導者懇談会という名では実施していないが、臨床教務会が今年度は指導者の参加をメインとし6名も取り入れ意見をいただいている。また、実習中は随時連絡を取り調整を行っている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 19) ケアを受ける対象者の権利を保障する体制がある | 患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、事前に受け持ち患者又はその家族の同意書を得ている。 | 指導者と教員の役割については、統合実習の実施方法の特徴から、「実習方法・内容および指導方法」を作成し指導者の役割を分けるようにしている。また、新カリキュラムでは全領域の役割がわかるように指導方法を作成した。また、役割について明確にするために「教員と臨床指導者の具体的な役割」を作成した。 実習指導教員は規定最低人数で必要配置できているが、それは2病棟を担当する教員が必ず出てくる。現状、学内の低下やコロナの影響で実習形態が変化する。その変化に対応して十分な指導ができているかという点、懸念される。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 9. 学生の看護実践体験の保証 | 情報管理規定に基づき、学生は情報管理を遂行している。また規定の見直しを行っている。 | 大阪病院で実習するにあたっての誓約書は作成し、学生は書類にサインをしている。 家族や患者へは、口頭で同意を得ているため、令和元年に「大阪病院の看護学実習で使用する同意書(案)」を作成し導入にむけて学務会議で検討したが、大阪病院の病院紹介に「実習を受け入れる教育病院」であることを明文化しているため、同意書の取り交わしは行わないことになった。 コロナ感染拡大により、実習状況が変化し、昨年度のカルテから情報を得るための実習時には、必要に応じては同意書を取り交わしたが、今年度は多くの実習が行えたため、同意書を得る必要がなかった。状況により対応している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 |

| 大項目 | 中項目 | 評価尺度 | | | | 平均 | 評価内容 | 評価視点 | 自己評価(概要・今後の課題) | 学校関係者評価委員の評価 | | | |
|-------------------|--------------------|------|---|---|---|-----|--|---|----------------|--------------|------|---------|---------|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | 評価尺度 | コメント | | |
| III 教授・学習・評価過程 | 20 | 0 | 1 | 2 | 3 | 2.8 | <p>インシデント発生時のマニュアルを作成し、実習前後に安全教育を実施している。</p> <p>インシデント等の情報が速やかに報告され分析をし、指導者・教員・学生が共有し再発防止に取り組んでいる。</p> <p>学生に傷害保険加入の必要性を説明し、学生が傷害保険に加入している。</p> | <p>インシデント等が発生した場合の報告ルート等は実習要綱に記載している。実習前オリエンテーションや実習後の振り返り、実習場で起こりやすい医療安全に関連したテーマでグループワークを計画し、実施している。</p> <p>ヒヤリハット報告を日々のミニカンファレンス時に確認することで、毎日意識をシタ認知力の育成をしている。また、各自が報告することで、グループ全体に周知し振り返りを行い学習に努めている。必要に応じてインシデント・アクシデントレポートを記載し、リフレクションサイクルで振り返りを行い、その振り返りを指導し今後の対策を明らかにしている。</p> <p>年間1回、3月に説明を行い、4月には学生保険W111に加入している。W112以上の加入を義務づけている。また、加入していることを実習施設にも説明を行っている。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | <p>感染症予防と拡大防止のため4種抗体価確認と結核罹患の確認及び免疫未獲得時はワクチン接種を勧奨している。</p> <p>2019年度までは通学規定の中で、遅刻・欠席するときは連絡することを定めて学生に周知している。学生便覧には細則の中で、第8条として欠席・欠課に関する内容を明記している。また、連絡が学校直通ではなく大阪病院を経由していたため、込み合い連絡ができないことがあり、令和3年度より直通電話をひいていただき、連絡がスムーズになった。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | <p>令和2年度にコロナ感染拡大をうけて「大阪病院附属看護専門学校新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」を作成し7月8日から施行している。学校での体温測定結果(朝、昼の2回)、健康チェックと行動履歴を教員が確認している。マニュアルは状況により随時、社会状況および病院ICUと相談し変更し学生に伝えている。今年度、コロナワクチンおよびインフルエンザワクチン接種に対して拒否をする学生が数名おり、家族を含め面接を行い説明をした。それでも拒否する学生に関しては、病院と相談し学校負担でPCR検査を週1回実施し実習が可能になった。</p> <p>入学時に、風疹・麻疹・ムンプス、水痘、B型肝炎の抗体価検査を行い、陰性だった者には実習までに予防接種を受けることを推奨している。B型ワクチンは1年次に3回実施。2年次に抗体検査を受けることを推奨し、陰性者には再度ワクチン接種を受けることを推奨している。インフルエンザの予防接種は学校で集団接種を実施している(便覧にも掲載している)。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | 10. 科目目標と授業内容との一貫性 | 22 | 0 | 1 | 2 | 3 | <p>令和元年までのシラバスには、授業内容と授業時間のみ記載で、具体的な授業方法の記載がなかった。また令和2年度にむけてシラバスに授業回数ごとに授業内容と授業方法を記載するように変更している。令和3年度の外部講師には、シラバスの内容の見直しを依頼し、提出してもらっている。これまで、教える側の立場で「授業目標」を明示してきたが、学生がこの授業を受けたことで「何が身につくのか、何ができるようになるのか」を明示することが推奨されているためシラバスを「到達目標」に変更した。新カリキュラムでは、さらにディプロマポリシーとの関連もわかるように記載した。また、他の講師が、どの内容を何コマ担当するのかなどもわかるように講師名を記載した。実習要綱は毎年見直している。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | | | 0 | 1 | 2 | 3 | <p>授業内容の重複や整合性が(実習場所も含めて)調整されている。</p> <p>授業内容は科目目標と一貫性はある。ただし、内容が重複するものもあるが、それは、重要視されるところである。新カリキュラムではマトリックスを作成し検討し段階的に何をどう学ぶか整理した。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | | | 0 | 1 | 2 | 3 | <p>週1回は必ず教務会を実施し、その中で特に演習や技術試験は必ず授業の検討を実施している。</p> <p>指導・助言を授業案に活かしている。</p> <p>基礎看護技術演習など複数名の教員で授業や演習をするものは実施後、評価の視点や授業方法などの見直しをしている。その他、各自教員がアンケートや小テストなどを行い評価をし、次に活かすことができるようにしている。</p> <p>全ての演習や技術試験において、教務会で検討し授業内容・方法を選択している。専門領域においても、他の教員の協力を待っている。</p> <p>必要に応じて他の教員と協力し、授業展開をしている。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | 11. 授業の展開過程 | 23 | 0 | 1 | 2 | 3 | <p>科目終了時に学生授業評価を行っている。</p> <p>科目終了時に教師の自己評価を行っている。</p> | <p>講義・実習ともに終了時に科目の授業アンケートを学生から実施し、評価している。</p> <p>専任教員の授業科目において自己評価を行った上で、学生の授業アンケート結果も用いて授業評価を行っている。今年度は専任教員以外の外部講師にも可能である講師からは授業評価をうけることができた。内部講師に関しては、教育を専門にしているわけではないため、授業アンケートで改善点など書かれることが負担だとその意見があり実施出来ていない。今後は授業アンケート内容の検討と、その結果を教員が確認した上で、何をどう検討してほしいのか相談するなどを考えている。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 |
| | | | 0 | 1 | 2 | 3 | <p>看護技術の実技試験や実習評価に対しては教務会で評価している。実習評価では臨床教務会で評価結果を伝え、臨床からも実習評価の意見を聞いている。今年度は看護技術統合演習Ⅱの技術試験の再試験人数が多かった。今年までの集大成で看護技術と知識・技術・態度を統合させ状況に応じて看護実践ができるように、何をどう教えるか良いのか卒業判定会議でも話し合った。次に活かすことができるように幹部からの意見も聞いた。</p> <p>教員で構成する教務会議が検討する場であり、行っている。</p> <p>学生の授業評価・教員の自己評価・テスト評価を検討する場がある。</p> <p>翌年の授業内容・方法の見直しにつなげている。授業アンケート結果の改善点などに記載し次に活かそうとしている。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | | | 0 | 1 | 2 | 3 | <p>授業についての評価計画がある(授業、臨地実習)</p> <p>テスト結果に対する評価を行っている。</p> <p>授業評価を教育課程編成及び教育方法に活かしている。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | 12. 評価の計画性 | 24 | 0 | 1 | 2 | 3 | <p>授業に関する評価計画がある(授業、臨地実習)</p> <p>テスト結果に対する評価を行っている。</p> <p>教員で構成する教務会議が検討する場であり、行っている。</p> <p>学生の授業評価・教員の自己評価・テスト評価を検討する場がある。</p> <p>翌年の授業内容・方法の見直しにつなげている。授業アンケート結果の改善点などに記載し次に活かそうとしている。</p> | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |

| 大項目 | 中項目 | 評価尺度 | | | | 平均 | 評価内容 | 評価視点 | 自己評価(概要・今後の課題) | 学校関係者評価委員の評価 | | | | |
|------------------------------|-----|------|---|---|---|----|--|--|---|--------------|------|---|--|--|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | 評価尺度 | コメント | | | |
| 13. 評価の妥当性、公平性 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 評価方法、評価基準及び評価結果を学生に提示している。 | 学生便覧、学則の第6章 第23条に授業科目の評価・修了の認定に関して記載している。実習に関しては全領域、ルーブリック評価を用いて実習要綱に記載しており、ルーブリックは学生の姿が基準であり、4となるための学生姿が明文化されているため、自己教育力を育むことができる。 また、評価結果においては、今までは学籍番号と結果○×△で提示していたが、点数と学生全体のグラフ(人数を記載したもの)を添付することで、自分がどの位置にいるかを理解でき、自己評価することで課題を明確にできるように今年度変更した。またこれは、個人情報保護することにも繋がると考える。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | | | | | | | 模範解答が一定期間掲示されている。 | 終了時試験の解答を再試験終了後に閲覧できるようにしている。また履修規程第16条にも試験の模範解答の閲覧に関する内容を明文化している。試験問題は自己学習を促すために、持ち帰ることができることとしている。 | | | | | | |
| | | | | | | | 成績評価、修了認定基準を明確化し、評価について公平性、妥当性が保たれている。 | 実習においては師長・指導者、看護教員三者合意としている。 | | | | | | |
| | | | | | | | 演習や実習の評価を複数の教員または指導者で行っている。 | 随時、評価の基準については、評価項目が妥当であるか、看護師に求められている項目の表現など問題ないかなど教務会で基準の見直しをしている。技術試験に関しては、終了後に必ず評価の難しかったところなどを確認し合い、評価が公平に行えるよう、評価者によって差が出ないようにしている。 | | | | | | |
| | | | | | | | 学生からの評価に関する異議・申し立てができる機会を設けている。 | 2019年度の学生便覧から、履修規程第16条に成績評価異議申立を明記し、学生にも周知している。 | | | | | | |
| 14. 管理者の経営方針の明確化 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 管理者が学校運営の考え方を明確にしている。 | 中長期的な将来構想は明文化している。現在は、中長期目標に基づき取り組みをしている。(2023年度までの予定) | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| 15. 組織体制 (1) 組織体制の明確化 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 26) 自校の組織図がある | 自校の組織図はあり便覧にも掲載している。令和2年3月末でフローンレス鳴尾寮が閉寮したため組織図から看護音管理人が外れた。また随時見直しして、次年度からの組織図に実習調整者を入れ、役割・責任を明確にする予定である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | | | | | | | 27) 自校の組織図がある | 役割定義書がある。 | | | | | | |
| | | | | | | | | 職員に周知している。 | 便覧で周知している。 | | | | | |
| (2) 意思決定機関、システムの明確化 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 28) 学校運営に関する会議の目的等が明確化されている | 令和2年度に各種会議の目的・開催時期・構成員を明記しているため問題ない。各会議規定に関しては今年度、検討できなかった。次年度の課題である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 29) 各種会議の議事録は適切に管理されている | 事務関連の書類については、独立行政法人地域医療機能推進機構法人文書管理規定第19条に基づき作成している。 永久保存の対象は、学籍簿・入試問題の原本、卒業証明書発行控え、入学試験料定額引として、会議毎にファイリングし、決められた場所に保管している。教務会関連の会議録の保存期間も独立行政法人地域医療機能推進機構法人文書管理規定を参考にしながら、保存期間を定め、表にし、いつでもだれもが確認できるようにしている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| (3) 教職員の任用の考え方 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 30) 教職員の任用の考え方が明確化されている | 教職員の任用基準が明文化されている。(採用基準・人数等) | 0 | 1 | 2 | 3 | 自己評価と同様 | |
| | | | | | | | | 任用基準を遵守した配置となっている。 | | | | | | |
| (4) 災害など非常時の危機管理体制の整備 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 31) 危機管理マニュアルを作成している | 危機のレベルに応じた教職員、学生の行動は便覧に記載している。また教務室のホワイトボードに、その日の災害発生時の責任者や避難誘導係などあらかじめ、早出の教員が確認・変更するようになっている。 看護管理者に必要な災害対策の研修(日本看護協会主催)に教員1名が参加した時に、災害別としてのマニュアルは必要ない。ただし学生の安否確認は、学校側が行う必要があることを確認し、行えるようなチェックリストを作成している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切に運営されているが、災害マニュアルの作成年度が平成26年となっていた。定期的なマニュアルの見直しは必要。 | |
| 16. 財政基盤 | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 32) 看護教育の質の向上を旨とした財政基盤の考え方が示されている | 令和2年に学則変更に伴って授業料が前期と後期の2期の支払いになった。これまで、実習や行事等に係る費用は、その都度徴収していた方法を見直し、実習管理費、教材費、旅費費として一括徴収する方法に変更した。 令和4年度の授業料以外の実習管理費などに関しては、徴収額は令和3度の実績と令和4年度の教育計画をもとに算出した。3月末に成績結果とともに家族に通知する。 毎年、予算策定時に予算申請している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 令和3年度は受験者数の増加及び専門実践教育訓練講座の再指定のために自己評価に記載しているような取り組みを行い、受験者数の増加や休学者の減少に繋がっていることが確認できた。継続的な取り組みが必要であるが適切に運営されていると評価する。 | |
| | | | | | | | | 次年度の予算策定時、附属病院との検討がされている。 | | | | | | |
| | | | | | | | | 職員が自校の財政状況を周知している。 | 財務関係に関して、本部で開催される学校運営会、所長や師長会議後には、必ず教員にも申し送りを行うとともに、資料を回覧している。また、経理課と連携をとり学校損益状況を確認しながら計画的に購入している。そのことにより、教職員の学校損益状況に関する関心も高まっている。 | | | | | |
| | | | | | | | | 財政に関する課題が明確である。 | 看護学校を受験者数の減少は、看護学校の財政に影響するので、受験者数の増加に努める必要がある。 また大阪府・JCHOに80%の就職させる。JCHO関連病院への就職人数を増やすことも重要である。その課題を受けて受験者数の増加のため、今年度はオープンスクールの回数を増やしたり(延べ230名の参加)、コロナの影響で難しかったが可能な限り高校訪問(4校実施)も行った結果、一般の応募者数は維持(65名)、推薦の受験者数(102名)は倍近く増えた。 令和3年度4月から国家試験の受験率水準不足のため、専門実践教育訓練講座が不指定となった。そのため、今年度の課題は休退学者を減少させ教育の質の維持と優秀な人材確保に努め、専門実践教育訓練講座の再指定の承認を得ることが優先である。 | | | | | |

| 大項目 | 中項目 | 評価尺度 | | | | 平均 | 評価内容 | 評価視点 | 自己評価(概要・今後の課題) | 学校関係者評価委員の評価 | | | | |
|---------------|-----------------------|------|---|---|-----|------------------------|--|--|---|--------------|---|--------|---|---|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | 評価尺度 | | コメント | | |
| IV 組織・管理運営 | 17.施設設備の整備 | 0 | 1 | 2 | 3 | 3.0 | 看護の専門職教育に必要な整備計画を立案し、計画的に実施している。 | COVID-19の感染拡大を防ぐために、体育館や視聴覚室を活用し対面授業をおこなっている。そして、濃厚接触者や感染性者などの学習の確保のため、今年度はオンライン授業ができる体制を体育館や視聴覚室にも有線とひき整備し活用している。 また、COVID-19感染拡大が終息することは難しく、臨地実習の制限や演習の密を防ぐため使用していない化学実験室をシミュレーション室へ変更し、今年度、昼休みに実施授業があり実習室を得ることができた。 また、今年度、学生が頻りに使用する2階のトイレを洋式に変更、視聴覚室の浸水による汚れた絨毯の取り換えと浸水予防、体育館の縦横の取り換え、調理実習室を在宅シミュレーション室に用途変更するなど予定し、3月までに整備完成予定である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 老朽化対策として補助金等を活用しながら、施設整備を計画的に実施してきた。また、オンライン授業や新カリキュラムに対応できるような施設整備などが行われており、学習しやすい環境となるように適切に運営されていると評価する。 | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | 安全な環境であると考える。 校舎は安全な環境になっている。(耐震・アスベスト等) | | | | | |
| | 17.施設設備の整備 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 33) | 学習しやすいアメニティを整備している。 | 学習しやすいアメニティとしては、狭い机、硬い椅子を新調した。また、グループワークなどで、机を自由に配置・変更できるようにコマのついた机とした。またアクティブラーニングを行うために、水性マジックや模造紙、ホワイトボードなどを完備している。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 講師の声が小さく聞こえづらいなどが授業アンケート結果からもわかり、教室にピンマイクと拡声器を買い入れた。また、101教室も必要であり、情報処理室のパソコンが古く授業にも支障が出たため40台を交換し、うち5台はDVDなども視聴できるパソコンとし整備をした。 図書に関しては今年度年間経費を設定していなかったが、今年度、経理と相談し年間10万円と決め計画的に購入をし、学生が学習しやすい環境を作った。 COVID-19感染拡大の中で学習を保障するために大阪府の助成金を得てWi-fi環境を視聴覚室と体育館整備を行い、4階以外、学校全体でインターネットが使用できる環境を作った。 また、今年度から電子教科書を導入し、iPadを購入することで、複数人のオンラインでの研が可能となっており、学生の学習の機会を確保できている。 | | | | | | |
| | 18. 学生生活の支援体制 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 34) | 経済面において、適切な社会資源の情報提供と相談システムがある。 | 在宅での講義を充実させるために、株式会社トーカイに介護福祉用具をレンタルし授業のリモコンを追求している。経済面や最新の福祉用具を利用できる点では効果的である。令和3年度は、株式会社トーカイの営業の方が福祉用具の詳しい方を実習室で説明し、学生が実際に使用する体験ができた。 また、手すりなどを在宅室に付け、介護用具の体験ができるようにした。 そして、新カリキュラムでも在宅看護の単位数が増え、在宅看護の重要性が注目されている。現在の調理実習室を変更し、在宅シミュレーション室と用途変更し、洋室および階段教室を作成することで、在宅実習ができるように工事をする予定である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 休退学者の減少対策としても重要である学習困難者へのサポートシステムは、学内の資源に以外にも企業との教育・学修支援を取り入れるなどの工夫がみられ、適切に運営していると評価する。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 学生寮設置など生活環境支援体制の整備、又は学生のニーズに応じた教育環境(社会人学生の単位認定制度等)の整備がされている。 | 令和2年3月でフローレンス鳴尾寮は閉寮した。単位認定制度は整備されており、入学後すぐに認定が完了するように、事前に申請ができるようにしている。 | | | | | |
| | 19. 学生の健康管理体制 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 35) | 社会的活動(ボランティア・自治会活動等)への助言、支援窓口がある。 | チューター制度を実施しているため、担当教員が面談し学習の動機づけを実施している。 令和3年度の入学前に入学前教育プログラム(Benesse 進研アド、3回の課題提出)と1年生と2年生は「基礎力リサーチ」(Benesse進研アド)を年2回実施した。その結果をもとに、入学者の個人別学力や学習習慣、学習意識を客観的に把握し、学校での状況をふまえて面談し、学習支援に役立っている。次年度は、入学前教育を5回の課題を取り組むように追加し、入学前に学習習慣と基礎学力の見直しをしてもらうこと、看護に関する問題を出すことで、動機付けを行っていく予定である。また、読書力、文芸力が低下しているため専門課題として「看護の力」を読みレポートを提出してもらうようにし、事前に把握し入学後に役立てる予定である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切に運営されているが、メンタルヘルスサポートについては、病院の臨床心理士によるカウンセリング以外の手段の検討も必要である。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 学校保健安全法に基づき健康診断を年1回実施している。結果を確認し校医による健康チェックも実施している。ワクチンに関する相談も行った。(インフルエンザ、コロナ) | | | | | | |
| | 20. 教育活動に関する関係者への情報提供 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 36) | 関係者等に、定期的に情報提供をする計画があり、実施している。 | 相談する特定の場所は設けていない。プライバシーが確保される校長室や会議室、教務室内の扉の閉まる部屋(旧印刷室)などを利用している。 4階の自治会室を整備し学生相談室、研ができる部屋へと変更した。 カウンセラーに関しては病院の臨床心理士のお問い合わせをしているが、兼業となるため、現在検討中であり、次年度には毛の輪となることが予測されている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切である。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 必要時、関係者との連携・協力体制がある。 | 教務会で情報提供している。師長会や臨床教務会を利用し情報を提供し、協力を得ている。また、急遽必要時には、大阪病院のベッドコントロール会議の時間を活用し報告し連携している。 | | | | | |
| 21. 将来構想 | 0 | 1 | 2 | 3 | 37) | 中・長期的な将来構想が明確化されている。 | 附属病院との連携を踏まえた中・長期的計画が立案されている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切である。 | | |
| | 0 | 1 | 2 | 3 | | 毎年度の運営評価が将来構想に活用されている。 | これまで、前年度の学校目標を評価し翌年度の目標に反映した。今後、細かなデータ分析ができるようデータベースを整え、客観的な分析を行いながら、実績を評価し改善していきたい。 | | | | | | | |

| 大項目 | 中項目 | 評価尺度 | | | | 平均 | 評価内容 | 評価視点 | 自己評価(概要・今後の課題) | 学校関係者評価委員の評価 | | | | |
|------|----------------------------|------|---|---|---|----|-----------------------------------|---|--|--------------|------|---|---|---|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | 評価尺度 | コメント | | | |
| IV | 22. 学校の自己点検・自己評価体制 | 0 | 1 | 2 | 3 | 38 | 自己点検・自己評価の組織的に取り組む体制が整えられている。 | 評価委員会の組織が設置されている。 | 平成30年度に作成した「大阪病院附属看護専門学校 学校関係者評価委員会規則」を今年度の一部見直し。(総論)第9条。委員会は、次に掲げる項区分から学校長が指名する委員により構成する。その中の(3)卒業生(教育に知見を有する者)(4)元当教員という文言を、「卒業生」「当校の教員」と限定しないこと、JCHO関連病院・学校出身者にも委員の選出を広げることができるためである。そのことで評価の視点も広がりが出る。と考え、今年度、他の学校の教員を委員に招き評価をしていただく予定である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切である。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 評価委員会の要綱がある。 | 各評価項目毎に関連する資料をファイリングするようにしている。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 評価の資料・データを整理するシステムがある。 | JCHO本部が作成した自己点検・自己評価、学校関係者評価のガイドラインに基づき評価結果を公表している。ホームページにも掲載している。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 評価結果の公表に関するルールが明記され公表している。 | 前年度実施した評価結果は文章で報告するとともに、学務会および教務会において検討事項を審議し、対策等を明らかにする体制がある。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 評価結果を学校運営にフィードバックするシステムもっている。 | | | | | | |
| V | 23. 入学者の選抜の考え方 | 0 | 1 | 2 | 3 | 39 | 選抜に対する考え方が方法が明確にされている。 | 学校案内・募集要項がある。 | 令和3年度学校案内を刷新した。また、今年度、次年度の新カリキュラムに対応した入学案内を作成した。これは早い段階で令和5年度入学生を対象に働きかけを行うためである。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 受験者数の減少を最小限にするため他校の入試選抜の情報を元に、入試選抜の時期と受験対象者、受験科目を再見直し、受験者数の増加に繋がっている。選抜方法についても結果を踏まえて試験問題作成者を変更するなど結果を踏まえて試験問題選抜されていると評価する。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 入学者選抜の方針を踏まえた入学試験実施要綱がある。 | 学校案内・募集要項の見直しを毎年、実施している。令和3年度にアドミッションポリシーを募集要項に掲載し、令和4年度も引き続き掲載する予定である。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 入学試験実施要綱に沿って実施している。 | 入学試験の評価基準を毎年見直ししている。アドミッションポリシーに応じた評価基準を設定している。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 選抜方法の妥当性を評価し、次年度に活かしている。 | 受験者数の減少を最小限にするために、入試選抜の時期と受験対象者・受験科目を令和2年度に見直し、具体的には、推薦入学試験に「公募推薦枠」と「社会人特別選考枠」を設けた。また「公募推薦枠」の受験資格を「新卒者」と卒業5年以内とした。また推薦入学試験のみ、受験科目を必須科目(国語総合)と選択科目(英語・数学Ⅰまたは数学Ⅱ)に変更した。今年度、選択科目に関しては、英語と数学の平均点の差が出る可能性を視野に入れ、事前に1.5点以上の場合には偏差値で調整するように決定し迅速に対応できるようにしていた。昨年度、英語は推薦入試・一般入試ともに他の科目より平均点が低く、科目間の差が大きかったため、試験問題作成者を変更し、数学についても、前年度の担当者から辞退したいと申し出があり、昨年度より変更しているが、両者とも今年度も継続してもらっている。受験の時期は前年度までは11月中旬であったが、10月31日(土)と約2週間早めている。また土曜日に開催することで、学校や職場を休まず受験できるように変更し、受験者数はその他の影響もあると考えが、伸びている。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | | | | | |
| VI | 24. 広報活動 | 0 | 1 | 2 | 3 | 40 | 応募者数の確保に努力している。 | 広報媒体を適切に使い、最新の情報を提供している。(インターネット、HP、学校案内パンフレット、ポスター等) | 受験生獲得にむけて、定期的にホームページを更新している。受験生の確保対象としては、マイナビ進学と契約し、広報を活動を実施した。また学校案内もマイナビを連携し、作成している。マイナビ株式会社を選定したのは、高校の利用率や学生の利用した経験など調べた結果から判断した。また、今年度はベスト進学を活用し無料で広報を行っている。2社と本校のHPからの学生募集要項の送付は合計で約1000件ほどである。情報の提供が受験者数へと繋がっていると考えられる。 | 0 | 1 | 2 | 3 | ホームページは定期的に更新されていたが、一部更新されていない項目があった。(原因が解明されているため改善を進めてください) |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 高等学校や各種会場での学校説明会への参加を大いに活用している。 | 今年度も令和2年度に引き続き副校長とともに、計画的に学校を訪問しようと考えていたが、COVID-19の影響で行けなかった。そのため、他社が企画する進学相談会には可能な限り出席(4校参加し2名の受験者を確保しうち1名は一般入試1位であった)をし広報活動を行った。大阪府看護協会と看護学校協議会が主催する進学相談会や進学イベントなどは、COVID-19の影響拡大傾向のため中止され、動画による広報活動となったため、教員がアビール動画を制作し提供した。夏のオープンスクールの開催は、感染予防対策を行いながら人数も縮小して行ったため、回数を増やし、土曜日や夕方にも開催することで、達べ230名(保護者除く)に実施し、直接学校の魅力を伝えた。そのため、受験者数も伸びた。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 中・高校生の総合学習等の受け入れは、積極的である。 | | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 応募者のニーズに応じた多様な募集形態や学校説明会を開催している。 | 応募者の数は、令和4年度の推薦入学試験応募者総数102(前年度57名、前々年度29名・現役のみ)、一般遊学試験の応募者は、65名(前年度62名、前々年度57名)と応募者を維持ではなく、推薦では大きく上回った。自校で定めた目標である「前年度より受験者数が維持できる」は達成し、より高い状況となった。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | | | | | |
| VII | 25. 卒業時の学修成果の評価 | 0 | 1 | 2 | 3 | 41 | 教育理念・教育目標に照らし、卒業時の到達状況を分析的に捉えている。 | 看護技術の到達水準を集計・分析し、到達レベルの見直し等は毎年実施し、大阪病院にも提示している。新カリキュラムにおいても、到達水準を定めた。 | 看護技術の到達水準を集計・分析し、今後の課題を明確にしている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切である。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 過去10年間国家試験の96%とホームページ、募集要項に掲載している。 | | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 国家試験の合格率が全国平均を上回っており、開示している。 | | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | 到達状況の評価を運営会議・講師会に報告し教育理念・目的・目標、授業に活用している。 | 国家試験100%にむけて、定期的な国家試験模擬試験および国家試験直前の特別講義など実施し、学生のサポートにも努めている。卒業時到達状況を評価し、運営会議に報告している。講師会が行っていないが、運営講師には状況を提示している。発展的に今後は、科目ごとに活用できるような情報提供の工夫をしていく。 | | | | | |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | | | | | |
| VIII | 26. 教育理念・教育目的と進路選択の状況との整合性 | 0 | 1 | 2 | 3 | 42 | 進学、就職に関しての支援体制が整っている。 | 卒業時の進路選択に対して相談に応じ、キャリアを含めた人生設計を考える時間を設けている。 | 1年次に進路希望調査を実施。2年次に就職に関するアンケート調査、「マイナビ株式会社」の協力も得て、就職および履歴書の書き方、面接に関するガイダンスを2回に分けて実施し、キャリアを含めた人生設計を考慮するように働きかけた。また、11月にJCHO近畿地区の関連病院の就職説明会に臨ませることで、より一層、キャリアを考えた就職をイメージづけた。2年生には3月に模擬面接を実施し、就職試験に臨ませる予定である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切である。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | JCHO病院への就職率が就職者中80%程度を下回らない。 | 今の3年生に於いても昨年の2年次に同じように働きかけ、今年度、JCHO大阪病院には20名、JCHO関連病院には10名が内定している。JCHO関連病院への就職率、大阪府の就職率共に80%以上で目標は達成した。 | | | | | |

| 大項目 | 中項目 | 評価尺度 | | | | 平均 | 評価内容 | 評価視点 | 自己評価(概要・今後の課題) | 学校関係者評価委員の評価 | | | | |
|---------------------------------|-------------------|------|---|---|-----|--|---|---|---|--------------|------|---|---|---|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | 評価尺度 | コメント | | | |
| Ⅶ 国際 交流 委員会 員 会 | 27.卒業後の活動状況の把握 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 43) 卒業生の就職先での活動状況を把握している | 卒業後の活動状況について情報交換をしている。 | 大阪病院の就職者については、何かあれば看護部と連携し情報を得ており、また情報提供もしている。また、実習中にも、卒業生と教員は関わりを持ち、活動状況を把握したり相談にのることもある。就職先の活動状況の把握は、病院からのハガキや、学校にきて話をすることが課題としている病院も多いが、今年度はCOVID-19の影響もあるのか、卒業生からの現状報告の申し出はなかった。どのような状況でも、学校側から他の病院へ就職をした学生に対し、情報交換の場を考案することが課題である。ホームページには、「卒業生の方へ」の中の同窓会のページに、住所変更時に届け出をしてもらうフォームを作成しており、卒業時にはその旨のオリエンテーションを実施している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 大阪病院に入職した卒業生については、大阪病院と情報共有することができるが、他のJCHO病院などに入職した卒業生についても情報共有できる体制を構築してほしい。教員と連絡できる卒業生は良いが、連絡がでない卒業生の方が課題を抱えている可能性がある。特に、COVID-19で病院間で人間関係が難しい現状があるので、是非病院と連携する体制を期待したい。 |
| | 28.地域社会へ貢献するための体制 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 44) 学校施設を地域へ開放している | 要請があれば学校施設を地域へ開放するシステムがあり、地域住民を対象とした公開講座を実施している。 | 要請があれば学校施設を地域へ開放するシステムはある。また、地域住民を対象とした公開講座などは学校祭などで行っており、また、今年度は市民祭などに参加も良いのではないかと意見が出ていたが、COVID-19の感染拡大に伴い、学校祭は行ったが学生内のみと縮小した。また、市民祭もなくなっている。また、地域の活動もへり、ボランティアの参加も積極的に行っていない。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 学校施設への地域へ開放するシステムはある。学校祭や市民祭などは計画を立案し、COVID-19の感染を確認しながら実施を進めてほしい。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 45) 地域との協力関係が確立されている | 地域包括ケアの担い手として老健施設等の地域のボランティア活動に積極的に参加している。 | | 0 | 1 | 2 | 3 | ボランティア活動について、COVID-19の影響はあるが、地域住民のニーズを確認し年間計画を立案し活動してはどうか。 |
| | 29.国際交流のための体制 | 0 | 1 | 2 | 3 | 1.8 | 40) 海外からの留学生や帰国子女を受け入れる体制がある | 帰国子女を受け入れる体制がある。 | 帰国子女の受け入れ体制は整っていない。令和4年4月1日からの便覧に明文化する予定である。今後、その他、何をどのようにすれば良いのか明確にし、検討をすすめていく。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 評価のとおり |
| 0 | | 1 | 2 | 3 | | 47) 留学や海外において看護職につくことを希望する学生または卒業生に、対応できる体制がある | 相手国言語による諸証明書発行が随時可能である。 | 英語での卒業証明書および成績証明書の発行依頼は、令和元元に2名、今年度1名から依頼があり発行した。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切である。各種証明書の費用について検討してはどうか。 | |
| Ⅷ 教 職 員 の 育 成 | 30.教職員の資質能力の向上 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 48) 職員の年間研修計画が立案されている | 年間の研修計画が立案され、適時必要な校内研修を実施し、受講している。 | 年間でいつ誰がどの研修にいくか4月の時点で希望を聞き、また、随時流動的に参加できるようにも戻した。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 年間計画に加え、研修目的、研修費用についての記載あり。研修に臨む際の機微づけが丁寧な。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 49) 職員の職業倫理観の向上に努めている | 業務規律が明文化され、ハラスメントに関する研修が実施されている。 | ハラスメントに関する研修を資料での研修、教務主任は本部研修をWEBで受けている。 | 0 | 1 | 2 | 3 | ハラスメントに関して、全教員が最新の情報を得て業務に取り組みよう、研修会の参加や伝達講習を徹底してほしい。 |
| | 0 | 1 | 2 | 3 | | 50) 学校の課題を教職員の年間研究目標として掲げ、計画的に課題解決に取り組んでいる | 研究結果を学校運営に活用している。 | 今年度はCOVID-19による影響で、学内実習や新たな実習形態に応じて対応することや、新カリキュラムの作成で時間と労力をばらばらおえない状況であり、研究課題には取り組んでいない。研究課題としてテーマがあり、取り組みはしているものもあるが文章化までできていない。目標は看護学校の紀要を作成することと、JCHO学会に提出することが、データ収集中であり、まとめるところまでは現在至っていない。 | 0 | 1 | 2 | 3 | COVID-19や新カリキュラムの作成により研究活動に取り組めなかったことは残念である。年間研究目標を掲げ、計画的に進捗を確認するなど研修活動が少しでも進むような体制を作してほしい。 | |
| | 0 | 1 | 2 | 3 | | 51) 教員の教授活動の能力を高め合う体制がある | 全教員が授業を公開し、事後に評価を行う体制がある。 | 今年度、大阪府専任教員養成講習会の教育実習場所として協力し、3名の実習生を引き受けた。担当科目は成人看護学・基礎看護学で、講習生を引き受ける中で、リフレクションや授業のあり方の検討を行う機会になった。基礎看護技術演習、試験に関しては教員間で教育方法のあり方を検討している。教員間の模擬授業は2名の教員が実施し、評価している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 2名が授業研究を行った。教育実習で実習生を受け入れることで、自施設の授業方法を振り返る機会となった。今後も継続して実践してほしい。 | |
| 31.教員の研究活動の推進と評価 | 0 | 1 | 2 | 3 | 2.2 | 52) 研修、学会等の成果を他の教職員に還元している | 伝達講習、または復命報告書を回覧している。 | 復命報告書はファイルに綴じするようにし、各自がファイルを確認するシステムとしている。また資料は回覧をし、必要時には会議で資料を用いて伝達講習を行い、何にどう活かすことができるか検討している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 復命書が作成され、他職員に回覧する体制がある。 | |
| | 0 | 1 | 2 | 3 | | 53) 教職員の自己研鑽に対する体制がある | 自己研鑽のテーマ設定に対して助言・指導を受けられる。 | 教務会で意見で進捗状況を報告することで助言をもらう仕組みとなっている。まずは、紀要の作成を次年度は行っていきたい。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 教務会で助言・指導を受けられる体制はあるが、実際にその仕組みがほとんど使われていない。実際に使用し、現在の体制に問題がないかを検討してほしい。 | |
| 32.教員の研究的姿勢の育成 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 53) 教職員の自己研鑽に対する体制がある | 学会発表・投稿論文等に対して助言・指導を受けられる。 | 協力は得られるが、教員のマンパワーが不足するため現実的には参加しにくい。 | 0 | 1 | 2 | 3 | マンパワー不足の現状はあるが、個人のキャリアデザインから資格取得までの計画等を検討する機会を持つよう努力してほしい。 | |
| | 0 | 1 | 2 | 3 | | 53) 教職員の自己研鑽に対する体制がある | 看護幹部研修課程・進学・職務に関連する資格取得等に対して職場内の協力体制が整っている。 | | | | | | | |

| 大項目 | 中項目 | 評価尺度 | | | | 平均 | 評価内容 | 評価視点 | 自己評価(概要・今後の課題) | 学校関係者評価委員の評価 | | | | |
|--------------|------------|------|---|---|---|-----|--------------------------|--|--|--------------|------|---|---|--------|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | | | | 評価尺度 | コメント | | | |
| IX 法令等の遵守 | 33. 法令等の遵守 | 0 | 1 | 2 | 3 | | 54) 関係法令等の遵守と適正な運用がされている | 保健師助産師看護師養成所等指定規則、専修学校設置基準等に基づき、適正に運営し、申請や届出事項を遵守している。 | 保健師助産師看護師法施行令第14条1項に基づき毎年報告している。 今年度は①4階の化学実験室からシミュレーション室の施設変更、②地下の調理実習室から在宅シミュレーション室の施設変更、③精神看護学実習場所の追加申請(伊丹天神川病院)の実習施設変更申請、④新カリキュラム申請、⑤新カリキュラムでの新たな実習施設申請(老年看護学実習の四恩学園)など多くあったが、大阪府に申請することが出来、概ね許可をもらっている。 その他、⑥国民年金保険料学生納付特例申請書は月1回JCHO本部に報告、⑦学校基礎調査と学校施設調査は5月に大阪府都市計画企画課に提出、⑧大阪府私立専修学校基礎調査(大阪府教育庁私学課に5月提出)、⑨出計算書類(大阪府教育庁私学課に6月提出)など法令を遵守し適切に運用している。 ⑩COVID-19の感染者が出たため、必要な書類を提出している | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切である。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | 3.0 | 55) 個人情報を保護する体制がある | 個人情報に関し、その収集・保管・廃棄に関する規定があり遵守している。 | 学校における個人情報の利用目的は「学生に関する事項」「卒業生に関する事項」を学生便覧に掲載し周知している。 実習における患者情報に関する取扱いと実習終了後のメモや実習記録のシュレッターに関しては実習要綱に記載している。実習記録簿は卒業するまで、鍵のかかるキャビネットで保管している。卒業時にはすべてシュレッターしている。 今年度「個人情報保護規定」および「個人情報保護方針」を作成し、次年度より運用していく予定である。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切である。 |
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | | 56) ハラスメント防止に関する規定がある | ハラスメントに関する相談窓口や相談に必要な手続きについて明文化されており、学生へ周知している。 | ハラスメントに関しては大阪病院の規定に基づいており、ハラスメントに関する学校の窓口は大阪病院の総務企画課長とし、JCHO本部からのハラスメントに関するガイドで明文化しは学生に配布し、周知している。 | 0 | 1 | 2 | 3 | 適切である。 |

①自己点検と学校関係者評価の結果

